

1. 長等の自然災害

- ・長等は他の地域と比べると大きな災害がない、台風が来ても予想より被害が少なかった。→これからも大丈夫（正常性バイアス）
- ・本当に大丈夫か？→大丈夫ではない

(1) 過去にも被害あり

1 3 年前の台風 1 8 号による大雨（わが国初の大雨特別警報発令）では広範囲で浸水被害。その 4 年後には台風で多くの樹木が倒壊

(2) 最近はゲリラ豪雨の可能性も

(3) 地震の可能性も

①琵琶湖西岸断層帯地震

琵琶湖西岸の 9 断層(北部 4、南部 5)による地震で、長等には南部の比叡断層がある

発生確率(今後 30 年：北部 1～3%、南部ほぼ 0%※)

※北部の断層による揺れで南部も地震が起こる可能性あり

推定震度(大津市) 7～5 弱。長等学区は 6 強または 6 弱

被害想定(ケース 2 = 南部からの断層破壊→南北連動)

〈大津市〉 死者…625～868 人、避難者 44,134 人

〈長等学区〉 死者… 22～ 33 人、避難者 1,609 人

②南海トラフ巨大地震

太平洋の南海トラフ(くぼみ)のプレートの動きにより発生する巨大地震
津波も発生

発生確率(今後 30 年：60～90%)

推定震度(大津市) 6 強または 6 弱

被害想定(陸側ケース = プレート境界が最も陸側)〔資料 P9〕

〈大津市〉 死者…39～94 人、避難者 15,124 人

2. 災害への心構え

- ・災害時に被害を少なくするには心と物の準備が必要
〈心の準備〉自治会や家族内で避難時期・避難場所・連絡方法の共有
〈物の準備〉ライフライン等の途絶を前提とした物資の用意・非常持出品の用意、家具の転倒防止

3. 大津市の物資の備蓄状況

- ・大津市全体の物資の備蓄状況〔資料 P10 の上〕
6 種類の拠点に各品目を備蓄
- ・人口比で長等学区分を計算したのが票の欄外の数値
避難者：琵琶湖西岸断層帯…市 44,134 人、長等学区 1,609 人、
南海トラフ…市 15,124 人〔3 日後〕、全避難者は 27,494 人。
→在宅避難者も含めると備蓄量は十分とはいえない
- ・小中学校にある市の備蓄倉庫内の物資の一覧〔資料 P10 の下〕→今後拡充予定